

除駆獣鳥

# 虚偽報告 霧島市議も

市認定「リスト

水増し」は不口定

霧島市が任命したイノシシなどの有害鳥獣捕獲隊員が虚偽の報告をし、報奨金を不正受給した問題で、市が虚偽報告と認定した29人の中に霧島市議1人が含まれていたことが30日、分かった。

南日本新聞の取材に対し、市議は尾や耳を

提出した個体とは別個体の写真を提出したことを認めたと上で、「市から問題ないと聞いて出した」と説明。「別の写真を提出したことは反省しているが、個体は確実に捕獲しており、水増し報告は絶対ない」と答えた。

さらに、「市から（虚偽報告の）リストには入らないと聞いていたのに、なぜ入ったのか不可解。抗議している」と話した。

市議の主張に対し、市は「個人の特定につながる発言は控える」とした。

一方、今回の事態を受け、市有害鳥獣捕獲

隊の米満廣志隊長(65)は「1人の報償費が数十万円などあり得ない。不正は明らかで悪質だ」と憤る。その上で、「虚偽報告が数事件と、2件が同じ処分(資格停止1年)では納得できないが、市の決定に従わざるを得ず忸怩たる思い。各自がもう一度、駆除の意義やモラルを考えてほしい」と強調した。

(藤崎慎二)